

担い手通信



先進事例情報

複数の害獣 自動捕獲

体温・距離を検知

鳥獣害対策機器メーカーのアイエスイーなどは情報通信技術（ICT）を活用して、囲いわなや箱わなに鹿やイノシシが入ったことを検知して自動で捕獲するシステム「ロボットまるみえホカクン」を開発しました。複数のセンサーを使い、群れごと捕獲ができます。7月に販売を始めました。

アイエスイーなどシステムを改良

自動捕獲のために、わなの奥に害獣との距離を測るセンサーを入りに体温を検知する温度センサーを取り付けました。距離センサーが検知しつつ、温度センサーが検知していない状態ならば、システムが「獣がおりの中に入った」と判断して扉を閉めます。両方のセンサーが検知している状態ならば、群れと判断して複数頭入るのを待ちます。

円。自動捕獲をする時間帯は設定できます。同社は、効果的な使い方として「最初は利用者が、わなの映像を確認しながらしっかりと群れごと捕まえる。個体数が減ってきたら、夜間の機能をオンにして省力化する」ことを勧めています。

同社と三重県農業研究所、鳥羽商船高等専門学校、兵庫県立大学の開発グループが作り出した。開発グループは2016年、獣の接近をスマートフォンに通知して、利用者はわなの映像を見

ながら遠隔操作で扉を閉められる「クラウドまるみえホカクン」を商品化しています。鹿やイノシシ、猿対策に全国270カ所以上に設置されています。この装置を改良し、自動捕獲機能を付けて、ロボット化しま

「クラウドまるみえホカクン」に後付けも可能です。追加費用は約20万



わな入り口に置いた温度センサーで、外にいる害獣を検知する(三重県伊賀市で)

営農技術ピックアップ

コムギ縞萎縮病に強い硬質小麦「タマイズミR」 遅まきせず多収量を確保

近年、国内産の小麦はパン・中華麺用などの需要が高まる一方、生産が追い付いていない状況となっています。これまで県内の中華麺用の

小麦生産は硬質小麦である「タマイズミ」が主力品種で、2011年時点で800ha程度栽培されていました。しかし、この品種はコムギ縞萎縮(しまいしゆく)病

に弱く、発病すると収量が大幅に低下するため、縞萎縮病の拡大とともに作付面積が年々減少していました。そこで農業研究所では、硬質小麦を

安定生産できるように、新たな硬質小麦品種「タマイズミR」を導入しました。「タマイズミR」は縞萎縮病の抵抗性をもつこと以外には「タマイズミ」と生育特性や栽培方法がほぼ同じです。縞萎縮病の発生地域でも、発病を回避するために遅まきする必要がなく、適

正な時期に播種(はしゅ)できます。また、縞萎縮病発生圃場で栽培した場合でも「タマイズミR」は発病しないため、「タマイズミ」に比べ千粒重は大きく、上麦重は4割以上多くなります。そのため、同病の発生地域に導入することで、収量や品質の向上が期待できます。

ただし、「タマイズミR」は収量の増加に伴いタンパク質含量が低下する可能性があるため、開花期の実肥を適切に実施する必要があります。



コムギ縞萎縮病の発生状況(2017年3月 松阪市で)

お問い合わせ先 生産技術研究室 農産研究課 ☎0598-42-6359

JAバンク三重 専門家派遣事業

法人化 事業承継 労務管理

農業者の皆さまの悩みや課題を 専門家がサポートします

6次産業化 経営改善

「JAバンク三重専門家派遣事業」は、円滑な事業承継や経営の高度化を目指す農業者の皆さまの要請に応じ、専門的な知識や経験を有する専門家を派遣し、経営課題に応じた適切な診断・助言を行うことで、課題の解決を図り、皆さまの発展に資することを目的としています。ぜひ、ご利用ください。

実施期間 2019年4月1日 ~2020年2月28日

対象者 ●三重県内において農業を営む方および農業に従事する方 ●三重県内において農業を営む法人 ※課題が不明確な場合や受入体制が不十分などの場合は、ご希望に沿い兼ねる場合がございます。詳細については各JA担当者までご確認ください

★税理士や中小企業診断士などのプロがアドバイスを行います。★年間最大で5回、**無料**で専門家のサポートを受けることができます。

農業を営むすべての方を応援します!

農業経営資金 5年 0.2% (変動金利)

●トラクターなど農業機械購入 ●栽培用ハウス・畜舎建設 ●その他農業経営に必要な資金に

実質保証料負担 保証料全期間全額助成! 0円

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。 <http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/> 2019年9月1日現在